

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601894
法人名	有限会社 ハーティ
事業所名	グループホーム らくらく
所在地	福岡県久留米市宮ノ陣町若松2348-5
自己評価作成日	平成30年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成30年11月21日	評価結果確定日	平成30年12月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑の理念でもある「感謝と思いやりの精神を大切に、地域の一員としての役割を果たしていきます」という理念をスタッフ一同が理解し、日々の介護に従事しています。四季の変化を感じやすい自然に囲まれた環境を活かし、天気の良い日にはひなたぼっこをしたり、野菜作りを行なっています。買い物、家事、掃除などをスタッフと一緒にしながら毎日が充実して過ごせるような施設を目指しています。入浴も毎日楽しめます。看取り介護にも取り組んでいて24時間主治医と連携可能な体制である為健康面も安心して頂けます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

駅から近く、交通の便がよい場所であり、周りには神社や公園もあるため、のどかな環境である。開設から14年が経ち、地域住民とは散歩のときに世間話をしたり、近所のお祭りでは婦人会の方が作ったぜんざいを一緒に食べたりと、良好な関係を築いている。医療機関や訪問看護と連携しながら、これまでに多くの看取りを行った経験があり、最期のときまで安心して過ごせる事業所である。家族が県外や海外など遠方に住んでいる場合は、ビデオ通話を活用するなど、家族に対する支援も温かい。利用者の希望には家族や関係者と協力し合っ、実現できるよう努めており、利用者の表情は穏やかで安心して過ごせていることが見てとれる。管理者も現場で活躍し、相談しやすい環境を整え、職員が働きやすい職場となっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「感謝と思いやりの精神を大切に、地域の一員としての役割を果たしていきます」という理念を念頭に入居者様だけでなく地域の方との交流や地域の課題に取りこんでいる。	よりよい施設となるよう、開設時からの理念を2年前に見直している。月1回の社内研修時に、理念に基づく支援ができているか、管理者や職員で確認し合い、理念に込められた思いを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に散歩に行き挨拶したり地域の秋祭りや文化祭に参加させて頂いている。	地域包括支援センターと協力して、近隣の小学校で行われた文化祭に血管年齢や握力測定ができるブースを出したこともあり、地域住民との深い関係づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の政治啓発学級で認知症の寸劇をしたりキャラバンメイトで地域にむけて認知症サポーター養成講座の活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し当施設の状況や行事などの実施状況を報告し話し合い、事故報告やヒヤリハットの報告では一緒に対策を話し合っ指摘や助言を頂き実践している。	利用者、家族会代表、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員が出席している。出席率もよく、様々な視点からの意見交換もあり、サービス向上につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加された時や事故報告時、必要時にご相談させて頂いている。離設頻度の多い方の相談した際には高齢者あんしん登録制度の登録につながった。	市町村担当者とは相談しやすい関係ができている。事業所の実情を知ってもらえるように、運営推進会議の開催月を市町村担当者が出席しやすいよう、偶数月の開催に変えるなどの工夫もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は当苑マニュアルに沿って行動している。利用者の尊厳を大事にし身体拘束は行わない。入口にチャイムを置いている。	職員全員が身体拘束となる行為について、正しく理解している。玄関の施錠はしないといった基本的なことだけでなく、利用者が個室でも自由に行動できるように布団や低床ベットを使用し、転落によるけがを防ぐなど、細かい部分まで気を配っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で定期的に学んでおり、日頃より虐待防止に努めている。特に言葉の環境を大事にして言葉遣いに注意しながら思いやりのある対応ができるようスタッフ間での声かけを行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んで制度の理解に努め、パンフレットあり必要な時のために準備している。	利用者への説明はパンフレットを常備し、いつでも対応できるようにしている。法人マネージャーが市民後見人の資格を取得しており、外部、内部研修も通して、職員の理解度は高く、相談しやすい環境である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約時には十分な時間を設けご本人様やご家族様が納得されるようわかりやすく説明している。改定時にも説明、同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日常会話から聞き取ったり、ご家族には家族の会、面会時等様々な場面で伺っている。玄関には意見箱を設けており、外部の連絡先も掲示している。	意見箱を設置し、家族訪問時には積極的に声をかけ、意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。訪問可能な時間が短いとの意見があり、現在は時間帯を延長し、家族が訪れる機会を増やすことにもつながっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や日頃より気軽に意見を言える関係性をとって必要に応じて対応している。	月1回の研修には代表者も参加し、職員から意見や提案を聞いている。実際に夜勤時間が短い事で休みが少ないとの意見があり、勤務時間を見直し、休みの日を増やすなど、業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の努力や実績等代表者に報告している。一人一人の得意なことを把握しやりがいとなるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層の男女を雇用している。基本的には全員正職員で採用し安定した雇用形態をとっている。また、資格取得や趣味のための希望休を極力応じる等配慮している。	20代から60代の職員が勤務し、障がいのある方の面接も行っている。70歳の定年以降も1年契約で継続して働くことができる体制である。資格取得時には、費用面や勤務環境での配慮もあり、働きやすい環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に対する研修会があれば参加している。また、代表者は日頃から職員に対し言葉の持つ影響力や重要性について指導し人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権についての研修には積極的に参加し、職員全員の理解を深めている。言葉の持つ影響力について常に念頭に置き、利用者の人権を尊重するケアを実践している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決めて施設内研修を行っている。外部研修についても経験、特に必要と思われる職員を優先して参加させている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は同業者の交流や連携の必要性を認識しており久留米市介護福祉サービス事業者協議会等でネットワークづくりや活動をして連携を図れる機会を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず代表者と管理者が事前訪問を行い本人の生活状況やニーズ等入居前の情報を共有出来るように努めている。それをもとに介護計画を作成し日々活かせるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には必ず見学をしていただき、また事前に訪問しご家族からお話を伺う機会を作り不安解消に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に相談者からお話を伺う段階で現状で一番必要な支援を受ける事が出来るように対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の有する能力を把握しており、出来ない動作だけをお手伝いし職員がお手伝いをしていただく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の支援には積極的に家族の協力もお願いしており、家族からの申し出に対しても当苑も協力しながら共に支えあう関係を作っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が遠方の方はビデオ通話で顔を合わせて話していただいたり、行きつけなどはご家族に協力をいただいて途切れないよう支援している。	利用者の地元の祭りに参加したり、家族の協力の基で経営していた会社へ出社したり、利用者の大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の性格などを把握し、一緒に過ごせる環境を提供し利用者様同士が支えられるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた利用者様のご家族からの相談も応じており、他施設に移られたが戻ってこられた利用者様もおられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族には面会時や電話で利用者様の生活状況を伝えながら希望や要望を聞き利用者様からは日頃の関わりの中から希望や意向の把握に努めている	日々の会話の中から思いや意向を確認している。困難な場合も、これまでの生活状況を家族から聞きながら、本人本位となるよう、家族などの関係者と相談しあっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人からの聞き取りやご家族の協力も得て生活歴やなじみの暮らし方の把握に努め、日々の介護に活かせるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前、状態変化があったときや定期的なアセスメントを行い、また日頃の関わりからも把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成担当者も介護と兼務して日々生活状況やニーズの把握に努めて介護計画作成時にはご家族の参加もお願いしている。必要時には医療機関にも助言をお願いしている。	介護計画はいつでも確認できるように各階に置き、情報共有に努めている。モニタリングは3か月に1回実施し、利用者の状況確認、新たな課題などについて関係者で協議しながら、介護計画を作成している。	訪問診療や訪問看護の内容が、介護計画とは別の連携ノートにしか記載がない。訪問診療や訪問看護について、留意すべき事項などを介護計画に記載することで、より利用者の現状に即した介護計画につながることに期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、連絡ノート、医療ノートに随時必要な情報は記載している。記録活用と共に職員間での情報を交換しながら介護計画の作成、見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるよう取り組んでいる。たとえば在宅復帰に向けて取り組んだり特別な外出支援等支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	踊りのボランティアをお願いしたり図書館やお祭りに出かけたり楽しむことができるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族が決定しているが相談があれば看取りを見据えての紹介させていただくこともある。かかりつけ医と密に連携をとらせていただいている。	家族からの協力もあり、利用者の希望するかかりつけ医を受診できている。看取りを希望する利用者、家族には24時間対応の訪問診療を紹介し、それぞれの希望に沿って臨機応変に対応している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は24時間体制でいつでも相談や指示を仰ぐことができる。週に1回は訪問され状態を把握と職員への指導もしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医と密に連携をとらせていただいております。早期退院が前提のもと主治医、SWと連携ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より終末期について話し合い、状態変化時の都度ご家族と方針を共有し主治医、訪問看護、ご家族の協力のもとに終末期の支援に取り組んでいる。	看取りの意向は、入居時だけでなく、体調に応じて再確認し、同意書などの関係書類もきちんと整備している。看取り時には、面会を24時間可能とし、主治医、訪問看護師、家族と共に方針を共有しながらチームとして支援をしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生法、AEDの研修を受けておりAEDは設置しており、マニュアルも掲示している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、運営推進会議でも協力をおねがいし、マニュアルも掲示している。また実際の経験後には再検討をおこなったりしている。	今年の夏に近くの河川が氾濫し、1階に住む利用者を2階へ避難させ、一晩過ごすなど、実際の災害を経験している。避難準備が発令された時点で対応を始めており、日頃の訓練が十分に活かされている。	実際に行った訓練内容を書面に残して訓練実施記録を整備し、緊急時に利用者の安全を確保する方法が職員間で共有できるような体制づくりに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念でもあり、言葉の影響力や重要性に関して日頃から職員間でもきをつけて対応している。	利用者の人格を尊重し、声かけ時の方言の中にも思いやりや優しさが感じられる。気になる言葉、動作は、職員間で注意し合える関係性も作れている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと職員と利用者様が話せる時間を持つよう心がけている。環境を整え自己決定できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様と過ごし方を一緒に考え決定することを心がけ休息等希望に添えるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の服装もその人らしい服と一緒に選んでいただき支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決められているが食べたいものを聞いたり旬のものを取り入れるようにしている。皮むきなどの下準備や引き膳、洗い物など一緒に行っている。	日頃の会話の中から聞いた食べたい物を献立に取り入れ、利用者は職員と一緒に同じテーブルで同じ食事を楽しんでいる。食材は利用者の状態に応じて、一口大に刻むなどの配慮もしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立を提供している。食事摂取量や水分量を記録して健康面の把握にも努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の力に応じた口腔ケアを行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄を実施。パターンを把握しおむつの卒業、失敗を減らす支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、利用者のほとんどがオムツ着用からリハビリパンツや布パンツへ移行できている。トイレ内も背当てクッションなどが用意され、利用者に対する思いやりや工夫が見られる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、食物繊維、適度な運動、など予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴していただける。あとは体調、本人の希望を考慮しながら支援している。	利用者の希望するシャンプーを準備し、ゆず湯やしょうぶ湯など季節を感じられる工夫もしながら、利用者それぞれに応じた入浴支援をしている。拒否する方にもタイミングを見て声をかけ、利用者全員が毎日入浴できるよう取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を使用し、状況に合わせて休息をとっていただいたりしている。日中の活動量にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療ノートを活用し、症状の変化にはケース記録に記載している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、嗜好品もそれぞれに利用し、表情や様子を見ながら気分転換を居て頂いている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族にご協力をお願いしながら希望の場所に外出できるよう支援している。地域の祭りでは地域の方が配慮して下さい。	買い物や旅行へ行きたいといった、利用者からの希望には家族や関係者の協力を仰ぎながら、実現できるよう努めている。コスモス街道や北野天満宮のおくんちなど、四季折々の催しに出かけ、外出を楽しんでもらえるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は金庫で行っているが、買い物での支払いが出来る方はご自分で支払いをお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、テレビ電話、暑中見舞いのはがき等柔軟に対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節の飾りものを貼り利用者様が不快に思われない様に清潔を保ち、温度や光等配慮している。	エアコンの風が直接当たらないように、吹き出し口にファンを取り付けたり、空気清浄器を設置したりして、快適に過ごしてもらうために様々な工夫をしている。利用者や職員が作成した、季節の飾りや絵などの作品もあり、家庭的な雰囲気である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにテーブルの椅子、ソファを配置しておりご自身の好きなように過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、利用者様が使い慣れた物の持ち込みをお願いしており、仏壇を持って来られたりしている。	これまでの生活環境を変えないように、使い慣れたタンスや仏壇、テレビなど、利用者の愛着のあるものが持ち込まれている。居室内はフローリングから全室畳へ変更し、落ち着いて過ごすことができる居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る方、分かれる方には不要な介助は行わずに環境作りと見守りをおこなっている。		